

4. 課程認定を受けている課程を有する学科等の各段階における到達目標

<応用生物科学部食品安全健康学科>（認定課程：中一種免（理科）・高一種免（理科））

（１）各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	一社会人として常識的な考えや活動が遂行できる基礎を築くとともに、自分が教員として社会にどのように貢献したいかを考えさせ、将来の目標を明確にする。さらに理科を中心にした基礎的専門科目の学修を通じて自然関係、人間関係および社会関係の幅広い教養的知識を身に付けさせる。 入学ガイダンス時に教職課程関連資料配布及び説明、4月教職説明会にて「教職課程履修案内」を配布し、教職課程履修に係る意欲向上を目指す。さらに、この学科の課程と教職課程との関連性についても理解させる。
	後期	教職課程科目を配置し、教員としての基盤を形成させつつ、「教育」に対して個人の考えでなく、理論の積み重ねと行動力により物事を進める現実を十分に理解させるとともに、該当中心年齢だけでなく、幅広い年齢層、性格、行動の理解、補助できる能力を身に着ける。各種基礎実験を配置し、実験技術を身に付けさせ、さらに考えさせる教育手法を理解させる。また、1年前期に引き続き、有機化学、無機化学、分析化学といった理科の基礎的専門科目や実験科目を学修し、中等教育から大学レベルの基礎的知識を涵養させる。 履修カルテ配付による指導を実施し、教育者に求められる資質や能力についての確認および理解を目指す。
2年次	前期	1年次に続き、教育論をより高度に学び教育者としての理解を深める。1年次に学んだ理科の基礎的科目を発展させ、生物有機化学、微生物学といった、より高度な理科に関わる教科科目や生化学実験などの実験科目を配置し、理科的素養を身に付けるとともに、各理科科目が密接に関わっていることを教科科目を通じて理解する。 現職、元教員による講義、講演会、学校ボランティアに参加することで、教育現場の現状に関する理解を目指す。
	後期	学生に対する具体的な対応能力の向上を目的として各種教育指導論を配置するとともに、細胞生物学などの教科科目を学ぶことにより、今までに学修してきたことを含めて、理科的知識や実験技術の授業における具体的な導入や展開方法を考え、そのための教材作成や教材研究を通じて、中学理科の教育法について理解を深める。
3年次	前期	教育専門性を高めるとともに、多様な生徒に対して人としての考えや行動を伝える能力向上を目指す。さらに、生理活性物質や細胞の機能など最新の知識を学ぶ学問を通して、新たに入手する情報を教材として使用する展開力を身に付ける。 教育実習指導の充実により、教育指導案の作成等、具体的な授業運営、校務分掌についての理解を目指す。
	後期	理科に関する専門的知識・技術の習得にくわえ、食品安全健康学実験という実験科目や統計学を通じ、実験機器を用いた分析の原理や得られたデータをどのように解析、プレゼンテーションするのかについて、体系的に学ばせる。教科科目では、放射線などの人体に関わる危険因子を学び、生物に対する理解を深める。また、教育に必要な基盤となる実験技術の習得に努めるとともに、上記応用的な講義科目を通じて、学問体系としての理科に関する総合的な能力を身に付ける。 教育実習などを見据えて、理科教員の講義や講演会、各種ガイダンスを用意し、理科におけるスペシャリストとしての専門性の基礎的・基本的な知識と技術を身に付けさせる指導法を育成する。
4年次	前期	教育実習に参加し、教職現場を体験するとともに教員として必要な資質を習得する。適宜、現場教員と教職課程教員や事務員による的確なサポートを行い、学生にフィードバックすることで、不足している知識や技能等を補う。さらに、「卒業論文」のための実験を開始し、その過程で理解力、調査能力、計画能力、実験能力（実行力）、考察力など各種能力の向上に努め、各科目の教育プログラムを組み立てる力もつけさせる。
	後期	4年次前期に続き卒論研究を遂行し、最先端の科学に関する意識を涵養する。卒業論文の作成を通じて科学の営みを体現し、科学的な表現方法、プレゼンテーションの能力を身に付ける。 教職課程における学びの集大成を行うとともに、理科教員に求められる資質と能力に必要な科学的に探究する能力と態度を育成する。卒業論文を通じて、日々進化する理科の情報収集法を学ぶことで、独創的な教材の作成、教育法の修得を目指す。さらに、メディアで流される科学的情報を十分に理解し、生徒に説明できる能力を身に付けさせる。